

# 平成 29 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	ミニトマトの露地疎植栽培におけるへたつき出荷向け品種の特性		
[要約] へたつき出荷向けミニトマト品種を利用した露地疎植栽培（通称：ソバージュ栽培）では、県内主要3品種はともに6月下旬定植で3t/10aが期待でき、「キャロルスター」は良果率、1果重、糖度が高い。定植日から良果総収量の50%および90%到達までの日平均積算気温は「キャロルスター」がより多く要する。					
キーワード	赤系	ソバージュ栽培	へたつき	技術部	野菜花き研究室

## 1 背景とねらい

本県のミニトマト栽培は雨よけハウスを利用した夏秋栽培が行われているが、夏期の高温や着果負担により9、10月の出荷量の落ち込みが課題となっている。

一方で、ソバージュ栽培はコストが比較的少なく、施設化が困難な圃場でも栽培が可能であることから、雨よけ栽培との組み合わせにより出荷量を補完できる可能性がある。

しかしながら、ソバージュ栽培は収穫時にへたがとれる品種が主に栽培されており、県内ミニトマト産地で一般的に栽培されているへたつき出荷用品種での適応性については不明であることから、ソバージュ栽培における県内主要ミニトマト品種の特性について明らかにする。

## 2 成果の内容

- (1) 8月中旬以降に収穫開始となる作型では、供試した3品種とも3,000kg/10a以上の良果収量を得ることができる（表1）。
- (2) 「キャロルスター」、「サンチェリーピュアプラス」は障害果率が低く、良果率が高く有望である（表1）。良果平均1果重は「キャロルスター」が大きい（表1）。
- (3) 糖度（Brix）は「キャロルスター」が他の供試品種より高い（表2）。一方でソバージュ栽培による果実糖度は同品種の雨よけハウス栽培の果実糖度よりも低くなる（表3）。
- (4) 定植日から各収穫期までの日平均積算気温との関係は、「収穫開始期」では品種の違いが無いが、「良果合計重量の50%到達時」、「90%到達時」では「キャロルスター」が他の2品種より多く要するため、定植時期を早めるなどの調整を行う（表4）。

## 3 成果活用上の留意事項

- (1) 直立ネット誘引法は平成26年度試験研究成果に基づいて行った。
- (2) 栽培にかかる留意事項は平成26年度試験研究成果の留意事項及び「岩手県露地ミニトマトソバージュ栽培の手引き（平成30年1月発行）」を参照すること。
- (3) へたつき出荷用品種は「平成27年度主要野菜の品種別作付実態調査結果」に基づき、作付上位3品種について供試した（「サンチェリーピュア」と「サンチェリーピュアプラス」は1つとして選定）。
- (4) 定植後に遅霜などにより収穫前の生育に障害を受けた場合、各収穫期が示した日平均積算気温から外れる場合がある。

## 4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯または対象者等 県内全域、指導機関
- (2) 期待する活用効果 県内ミニトマトにおける時期別出荷量の安定化

## 5 当該事項に係る試験研究課題

(H25-14)ブランド化を促進する野菜の生産・加工技術の実証研究 [H25-29/国庫委託]  
(3000) 省力的なトマト栽培による高収益モデルの実証研究  
外部資金課題名：ブランド化を促進する果実等（野菜）の生産・加工技術の実証研究（食料生産地域再生のための先端技術展開事業）

## 6 研究担当者 吉田泰

## 7 参考資料・文献

- (1) 平成26年度試験成果（指導）：ミニトマトの露地疎植栽培に適した誘引法
- (2) 岩手県露地ミニトマトソバージュ栽培の手引き

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 果実収量の品種間差異（2016～2017年）

年次	品種	10aあたり						良果率 (%)	障害果率 (%)	良果平均1果重 (g)
		良果重量(kg)				規格外重量 (kg)	障害果重量 (kg)			
		8月	9月	10月	合計					
2016	キャロルスター	268	3,357	1,852	5,477	241	342	90.4	5.6	11.9
	サンチェリーピュアプラス	356	4,046	994	5,396	111	510	89.7	8.5	10.9
	キャロル10	242	3,279	413	3,934	246	1,024	75.6	19.7	11.1
2017	キャロルスター	156	1,615	1,463	3,234	99	463	85.2	12.2	11.1
	サンチェリーピュアプラス	135	2,496	601	3,232	228	486	81.9	12.3	9.2
	キャロル10	226	2,921	498	3,645	386	728	76.6	15.3	9.4

耕種概要 定植日：2016/6/27、2017/6/26 誘引方法：直立ネット誘引  
畝間：1.8m、ベッド幅：50cm、ネット高さ：150cm、株間：1m、栽植密度：550株/10a  
2016年は接木栽培（台木Bバリア）、2017年は自根栽培。

調査概要 調査期間：2016/8/10～10/31、2017/8/14～10/30について週2回収穫。  
調査方法：1区1株3反復として商品果、規格外果、障害果の個数、重量を調査。  
規格外は7g未満/果とした。

表2 糖度の品種間差異（2016～2017年）

年次	調査日	品種	糖度 (Brix%)
2016	9/5	キャロルスター	8.0
		サンチェリーピュアプラス	7.7
		キャロル10	8.3
	10/26	キャロルスター	8.2
		サンチェリーピュアプラス	7.3
2017	9/21	キャロル10	7.5
		キャロルスター	8.8
		サンチェリーピュアプラス	7.9
		キャロル10	7.5

調査方法 各区良果10果について糖度（Brix）を計測して平均を算出。

表3 露地とハウスによる糖度の差異

品種	栽培環境	糖度 (%)
キャロルスター	ハウス栽培	7.9
	露地ソバージュ栽培	7.0
サンチェリーピュアプラス	ハウス栽培	6.9
	露地ソバージュ栽培	6.2

調査日 2017/8/25

調査方法 表2と同じ。

ハウスは2017/3/2に定植し、ロックウール培地を用いて養液栽培（EC1.0-2.0ds/mで管理）した果実を供試した。

表4 各収穫期到達の月日及び定植から各収穫期到達の日平均積算気温

品種	年次	月日							日平均積算気温 (°C)		
		定植	収穫開始	良果総収量の				収穫開始時	良果総収量の		
				50%到達時	90%到達時	50%到達時	90%到達時				
キャロルスター	2016	6/27	8/10 (44)	9/23 (88)	10/20 (115)	1,183 (±70)	2,066 (±17)	2,423 (±25)			
		5/19	7/24 (66)	8/24 (97)	9/11 (115)						
	2017	6/7	7/31 (54)	9/11 (96)	10/2 (117)	1,161 (±75)	1,997 (±25)	2,269 (±46)			
		6/26	8/14 (49)	9/29 (95)	10/19 (115)						
サンチェリーピュアプラス	2016	6/27	8/10 (44)	9/20 (85)	10/11 (106)	1,161 (±75)	1,997 (±25)	2,269 (±46)			
		5/19	7/24 (66)	8/24 (97)	8/31 (104)						
	2017	6/7	7/31 (54)	9/7 (92)	9/25 (110)	1,093 (±73)	1,889 (±21)	2,170 (±44)			
		6/26	8/10 (45)	9/21 (87)	10/5 (101)						
キャロル10	2016	6/27	8/10 (44)	9/15 (80)	10/3 (98)	1,093 (±73)	1,889 (±21)	2,170 (±44)			
	2017	6/26	8/14 (49)	9/19 (85)	10/2 (98)						

日平均積算気温は日平均気温（場内計測データ）を定植日から積算したもの。定植時の苗姿は開花直前～開花始め。月日のカッコは定植日からの日数、日平均積算気温のカッコは標準誤差を示す。